

消防の お知らせ

西東京消防署
西東京防火防災協会
西東京防火管理研究会
西東京危険物安全会

No.184 平成24.8

防災週間 8月30日～9月5日 「9月1日は防災の日」

地震時は しっかり落ち着き 身の安全

平成24年度 東京消防庁防災標語

作者
森川 暢明さん
(中央区在学)

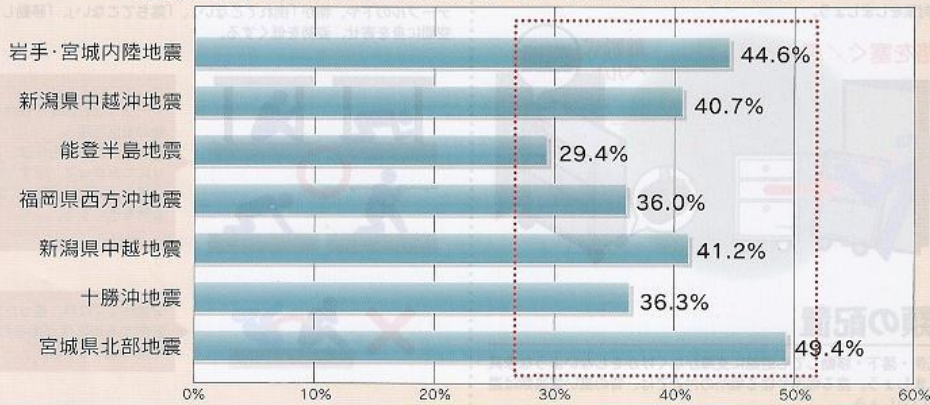
なぜ家具類の転倒・落下・移動防止対策が必要なの？

●地震による負傷原因

近年発生した直下地震でけがをした原因を調べると、約30～50%の人が、家具類の転倒・落下・移動によるものでした。

家具類の転倒・落下・移動は、直接当たってけがをするだけでなく、つまずいて転んだり、割れた食器やガラスを踏んだり、避難経路を塞いだりするなど、いろいろな危険をもたらします。

近年発生した地震における家具類の転倒・落下・移動が原因のけが人の割合



近年、首都直下地震や東海・東南海・南海地震の発生が危惧されており、これらの地震による室内被害の発生が懸念されています。地震災害から身を守るための事前の備えは、室内の安全対策からです。この機会に室内の安全対策を見直してみましょう。

回覧 (表面もごらんください)



地震だ！
まず身の安全

身の安全のために

— してありますか？家具類の転倒・落下・移動防止対策 —

家具類の転倒・落下防止

家具やテレビ、パソコンなどを固定し、転倒や落下防止措置をしておきましょう。また、就寝中の地震発生に備えて寝室の家具は、優先的に転倒防止対策を実施しましょう。重いものは、下に収納することで家具の重心が低くなり転倒しにくくなります。

【家具類の転倒・落下防止対策の例】



※転倒防止器具はホームセンターや量販店で販売しています。

家具類の移動防止



高層階では、低層階に比べ揺れが大きくなる傾向があり、家具類の転倒・落下に加え、家具類の「移動」が発生します。家具類の移動で、「挟まれる」「ぶつかる」ことによるけがや、避難経路が塞がれるなど避難障害が生じる可能性があります。頻繁に移動すると家具類は、キャスターをロックし、壁と着脱式ベルトなどで連結、あまり移動しないキャスター付き家具類は、キャスターに下皿を敷き、さらに転倒防止対策をしましょう。

避難路を塞ぐ／ぶつかる



家具類の配置

家具類が転倒・落下・移動しても避難に支障がなくけがをしないような家具の配置をしましょう。座る場所や寝る場所の付近では、背の高い家具類は避ける方がいいでしょう。

地震による揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時は、身の安全を最優先に行動する。丈夫なテーブルの下や、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見る。

安全スペースへの退避

【緊急地震速報を受けたとき】

重量物から離れ、慌てずに安全スペースへ避難し、身の安全を図る。



地震時の身の安全の図り方

テーブルの下や、物が「倒れてこない」、「落ちてこない」、「移動してこない」空間に身を寄せ、姿勢を低くする。



テーブルなどの足を保持して身の安定を図る。手すりがある場合には、手すりにつかまって（手すりがない場合は、四つん這いになる）姿勢を低くする。



安定がなくなり、座ったまま転倒する可能性があるため、完全には座らない。

詳しくは東京消防庁ホームページへ

東京消防

検索



問合せ先